

## オクラ (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	疫 病	葉 す す 病	苗 立 枯 病	灰 色 か び 病	黒 斑 病	う ど ん こ 病	葉 枯 細 菌 病
トリフミン水	DMI	3		1	3		◎			◎	◎	
アミスター20FL	QoI	11		1	2						◎	
アフェットFL	アミド	7		1	3				◎		◎	
ロブラール水	ジカルボキシイミド	2		1	3				◎	◎		
トップジンM水	ベンゾイミダゾール	1		1	3		◎					
ベンレート水	ベンゾイミダゾール	1		1	3		◎					
リゾレックス水	有機リン	14		*a	2			®				
ダコニール1000FL	他	M5		1	5		◎					
タチガレン液	他	32		*c	2			®				
モレスタン水	他	M10		1	3						◎	
ユニフォーム粒剤	QoI・アミド	11・ 4		*b	1			◎				
				1	3	◎						
カスミンボルドー水	抗生物質・無機	24・ M1		*d	3							◎

\*a: 播種時及び子葉展開時 \*b: 播種前 \*c: 播種時～発芽初期

\*d: 収穫開始7日前まで

◎: ビシウム菌による病害 ®: リゾクトニア菌による病害

# オクラ (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用 機構 分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ヨ コ バ イ 類	カ メ ム シ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	オ オ タ バ コ ガ 類	ネ キ リ ム シ 類	ハ ダ ニ 類	ネ コ ブ セ ン チ ュ ウ
アタブロン乳	I GR	15		1	4							◎	◎	◎			
マトリックFL	I GR	18		1	3							◎					
ネマキック粒	殺線虫	1B	*g	1													◎
ネマトリンエース粒	殺線虫	1B	*b	1													◎
フェニックス顆水	ジアミド	28		1	2							◎					
プレバソンFL5	ジアミド	28		1	3							◎	◎				
ベネビアOD	ジアミド	28	*h	3		◎											
アクタラ顆溶	ネコチナイト	4A		1	3		◎										
アドマイヤーFL	ネコチナイト	4A	劇	1	3	施	◎			◎							
アルバリン顆溶 スタークル顆溶	ネコチナイト	4A		1	2		◎		フ								
アルバリン粒 スタークル粒	ネコチナイト	4A	*f	1			◎										
モスピラン顆溶	ネコチナイト	4A	劇	1	3		◎										
ダントツ溶	ネコチナイト	4A		1	3		◎										
アディオン乳	ビレスロイト	3A		1	3		◎			◎		◎					
ガードベイトA粒	ビレスロイト	3A	*c	3												◎	
トレボン乳	ビレスロイト	3A		1	3		◎			◎							
アフーム乳	マクロイト	6		1	2								◎				
オルトラン水	有機リン	1B	*d	1			◎		ミ								
ダイアジノン粒5	有機リン	1B	*e	2												◎	
ウララDF	他	29		1	3		◎		フ								
コテツFL	他	13	劇	1	2							◎	◎				
コルト顆水	他	9B		1	3		◎	◎									
チェス顆水	他	9B		1	3		◎										
プレオFL	他	UN		1	2							◎	◎				
モレスタン水	他	UN		1	3												◎

\*b: 播種前 \*c: 播種時～生育初期 \*d: 収穫開始7日前まで  
 \*e: 収穫開始30日前まで \*f: 生育期 (但し収穫開始14日前まで)  
 \*g: 播種又は定植前 \*h: 収穫開始3日前まで  
 施: 施設栽培  
 フ: フタテンミドリヒメヨコバイ  
 ミ: ミドリヨコバイ

## オクラ(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
黒根病	播種前	・高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。	
	育苗期～生育初期	・発病株は早めに処分する。	
半身萎凋病	定植前	・高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。	病原菌は多犯性で、ナス、トマト、イチゴ、ウドなどをおかす。
	生育期	・発病株は早めに処分する。	
葉すす病	生育期	・発生を認めたら次の薬剤を散布する。 トップジンM水和剤 1500倍	
苗立枯病	播種前	・高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。	本病は主にピシウム菌、リゾクトニア菌による。  #1 ピシウム菌にのみ有効。 #2 リゾクトニア菌にのみ有効。
	播種時	1. 過密な播種を避け、育苗床の過湿に注意する。 2. 次の薬剤を土壌灌注する。 タチガレン液剤#1 500～1000倍 50～200ml/株 リゾレックス水和剤#2 1000倍 150ml/植穴(10/土壌1㎡)	
うどんこ病・ハダニ類	生育期	・発生を認めたら次の薬剤を散布する。 モレスタン水和剤 3000倍	
アブラムシ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 オルトラン水和剤 1000倍	
ハスモンヨトウ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アタブロン乳剤 2000倍 フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍	
オオタバコガ	生育期	1. 被害果を処分し、周辺に幼虫がいたら捕殺する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤 2000倍 コテツフロアブル 2000倍	虫糞などで幼虫の発生を確認する。
ネコブセンチュウ	播種前	1. 発生圃場では被害残物(地下部)を取り除いておく。 2. 前作物に寄生が認められたところでは、土壌消毒をする(土壌消毒の項参照)。 3. 次の薬剤を全面土壌混和する。 ネマトリンエース粒剤 20kg/10a	
その他の病害虫		フタトガリコヤガ、ワタノメイガ	